

胃内投与用

手術基本情報

- 系統：Cri:CD(SD)
- 性別：雄・雌
- 週齢：6-8週齢
- 手術時間：20-25分
- 術後観察期間：2日間
- 微生物グレード：ジャクソンラボラトリージャパン SPF項目
- 麻酔薬：ケタミン・キシラジン混合麻酔薬
- 鎮痛剤：ブプレノルフィン 0.01-0.05mg/kg S.C. SID 手術当日のみ
カルプロフェン 5 mg/kg S.C. SID 手術当日から術後2日まで
- 抗生物質：投与なし(必要に応じて投与)

カテーテル情報

- 素材：ポリウレタンチューブ Access Technologies/Norfolk Medical Products, Inc
- 型番 サイズ：BC-3.5P(ID:0.6mm/OD:1.1mm)
- ゲージサイズ：22G
- カテーテル先端形状：スクエア
- デッドボリューム：約50 μ l (手術動物証明書に記載)
- 充填剤：生理食塩水

処置概要

1. 体重測定及び一般症状観察を実施後、ケタミン・キシラジン混合麻酔薬を腹腔内に投与する。
2. 腹部及び頸部背側を除毛し、イソジン液及び70%エタノール液を用いて術野を消毒する。
3. 頸部背側及び下腹部皮膚を正中切開後、腹部筋層も正中切開し、胃を露出する。
4. 針付縫合糸を用いて胃(噴門部・大弯)に巾着縫合する。
5. カテーテル挿管部を切開後、カテーテル挿入、巾着縫合を絞ってカテーテルを固定する。
6. カテーテル留置後、生理食塩水にてリークテストを行う。
7. 縫合糸にて腹部筋層を縫合する。
8. カテーテル誘導管にてカテーテルを頸背部まで導き、背部筋層とカテーテルを縫合糸にて結紮固定し、クリップを用いて腹部及び頸部背側術創を縫合する。

※本書式に記載された術式は、ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社手術グループ手順書「ラット 胃内カニュレーション術」(承認No.1099)の内容に準ずる。

飼育、取扱いについて

頸背部よりカテーテルが出ているため個別飼育をお願いします。カテーテルがケージトップに挟まる可能性がございますので、ケージトップが低いタイプは避けて飼育してください。カテーテル開通性維持のため、2-3日に1回はメンテナンスを実施してください。カテーテルのメンテナンス方法としてカテーテル内にカテーテルデッドボリューム量の生理食塩水を注入してください。なお、デッドボリューム量については手術動物証明書に記載されていますので、その値をご参照ください。

ご案内事項

胃内カニュレーションは、胃内への薬液投与を目的とした施術となっております。施術による胃の蠕動運動等への影響についての確認には至っておりません。試験の目的に応じて、関連文献等を事前にご確認ください。

配送情報

- 輸送箱：プラスチッククレート
- 梱包形態：仕切り板による個別梱包(1-3匹/クレート)



お問い合わせ

ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-17-6 イノテックビル11F
TEL: 045(474)9350 Email: ask@jax.or.jp